

# GINGA REPORT 401

No. 81  
2022.02

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和4年2月1日  
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム  
電話：059-355-2700

## 2月の星空

星図：ステラナビゲータ9/(株)アストロアーツ

### 冬の明るい一等星

全天に輝く21の一等星のうち、7個が冬の星空に見えています。そのうち、オリオン座のベテルギウスを除いた6個を繋ぐと、大きな六角形の出来上がりです。視野には収まらないほどのこの大きな星並びを、冬のダイヤモンドと言います。

### カノーパスを探そう

実は冬の空には、もう一つ一等星が見えています。ただし、地平線のきわで輝くため、南の空が開けた場所で、視線の先のずっと向こうまで雲のない日にしか見ることが出来ません。

それが、りゅうこつ座のカノーパスです。りゅうこつ座はもともとアルゴ座という巨大な星座の一部でしたが、現在は4つのパーツに分解されて呼ばれています。

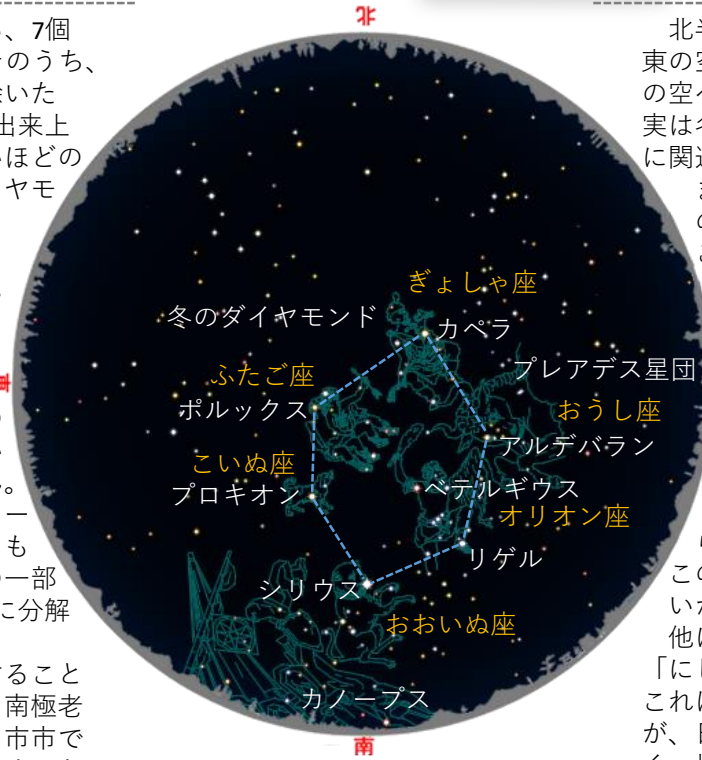
カノーパスは見ると長生きすることが出来るという言い伝えから、南極老人星とも呼ばれています。四日市市では、霞ふ頭など、水平線を見渡すことが出来る場所であれば、チャンスがあるかもしれません。

2月15日21時の星図

### 星の動きを冬の空で学ぶ

北半球で南の空を向くと、星は毎日東の空から昇り、南の空を通過して、西の空へと沈んでいくのがわかります。実は冬の星々は、そんな星の日周運動に関連した名前がとても多いのです。

まずこいぬ座のプロキオンは「犬の先駆け」という意味があります。これは、こいぬ座がおおいぬ座よりも先に昇ってくることからついた名前です。また、おうし座のアルデバランは「プレアデスに続くもの」という意味があります。おうし座の肩のあたりで輝くプレアデス星団の後をついていくように見えるため、このように呼んでいました。さらに神話の上では、オリオン座もこのプレアデスの七人姉妹を空で追いかけているのだとされています。他にもぎょしゃ座のカペラには、「にじぼし」という和名があります。これは、天の北極に比較的近いカペラが、日周運動によるみかけの動きが遅く、地平線近くにいる時間が長いこと、気流の影響で虹色に輝いてみえることを表した名前です。



## 今月の天文トピック

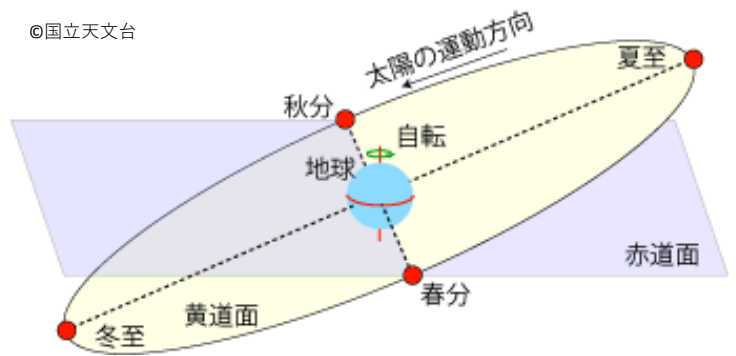
### 黄道十二星座と太陽

2月頃は、ふたご座を筆頭に、おうし座やかに座といった黄道十二星座が空の高いところに見えます。黄道とは太陽の通り道のこと、黄道十二星座はその通り道に位置する12個の星座のことです。例えば6月頃には太陽はふたご座のあたりにあります。ふたご座が6月頃のお誕生日の星座であるのも、これが理由です。

そもそも黄道は、天の赤道に対して23.4度傾いています。そのため、夏至の頃には太陽が空の高いところに、反対に冬至の頃には低いところに見えます。これは、地球の自転軸が、太陽の公転面に対して同じだけ傾いているからです。

同様に、夏の太陽のそばで輝く星座たちは、その反対の時期、冬の夜に空の高いところに見えます。逆に、冬の太陽のそばで輝く星座たちは、夏の夜に空の低いところに見えるのです。

©国立天文台



## 博物館主催 スターウォッチング

### 博物館主催きらら号観望会

日時：2月26日(土) 18:30~20:00  
場所：博物館前市民公園  
内容：星雲・星団を見よう







※当日受付・参加無料です。  
※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)  
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。

## 編集後記

冬のダイヤモンドはなかなかロマンチックな響きですが、これはあくまでも日本での呼び名です。海外では、もっと大雑把に丸く繋ぎ「ウィンターサークル」なんて呼ぶ地域もあるそうです。

一度六角形に繋いでしまうと、そんな雑な見方出来っこないと思うのですが、それくらい大雑把でも簡単に見つけられるのが、冬の星の良いところなのかもしれません。

## 2月の月

- 1日  新月
- 8日  上弦
- 17日  満月
- 24日  下弦